

フラワーアーティスト KAORUKOさん

Special Interview

花を通して、「生きる希望」「癒し」「勇気」「愛」「微笑み」を世の中のためにお届けしたい……
そんな想いを胸に、27年前主婦だった彼女が、「トップフラワーアーティスト」へのぼりつめたサクセスストーリー



KAORUKOプロフィール

フラワーアーティスト・
ウェディングプロデューサー

テレビ、女性誌等で多数取り上げられて
いる。これまでに2万組のオリジナルウェ
ディングを手掛け、常に日本のブライダル
シーンをリードしている。
KAORUKOオリジナルゆるれるブーケ
は、花嫁の心をとらえ美意識の高い女性
に圧倒的な支持を受けており、多くの
雑誌でKAORUKO特集が組まれる。
KAORUKOフラワーデザイン研究所
設立。日本を代表してNY、マニラ、ロンドン、
中国、韓国、台湾のデモンストレーション
やブライダルフラワーの教育指導に招聘
される。

- 2012年 南房総市初の「観光大使」
花の親善大使として就任。
- 2012年4月 ハバード大学アメリカ
合衆国にて特別講義をおこなう。
- 2012年11月 ロンドンアカデミー
オープン。著書多数。
- おもなテレビ出演：「徹子の部屋」(テレビ
朝日)「フロンティア」(テレビ東京)「ホスト
アジア」(NHK)

ストーリー1 始まりは自分の結婚式：

あれは1986年。女性誌を読ん
でいたら「これからの花嫁修業はフラワー
アレンジメント！」という記事が目につい
た。何かビビッと感ずるものがあつて
習い始めました。「結婚式は自分が作った
ブーケで、ドレスもコーディネートして
全部自分でやるわ！」と決めて、自分の
着るドレス3着分のトータルコーデ
ィネートをやり遂げました。でも当時、
自分でコーディネートする人なんてま
ずいないし、美容師さんにも結婚式会場の
担当者にもイメージを解ってもら
うに苦労して。今こそ当たり前のオリジ
ナルウェディングはその発想すらない
でもそう思うのは私だけじゃない
かも？結婚する女性はみんなそう思っ
ているはず?!じゃあ私が仕事にしよう
とて考えました。当時アメリカにはフラ
ワーコーディネーター、ウェディングプロ
デューサーなんていう仕事があることを
聞いていて、そうか、日本に居ないなら



ストーリー2 箱入り専業主婦、 フラワーコーディネーター としての第一歩

その後1992年に主人の転勤に
伴って横浜に越してきたと同時に二人
の子供の育児をしながら自宅マンション
でアレンジメントの教室を開きました。

ストーリー3 桂由美先生との 運命の出会い

1996年YUMIKATSURA
との出会い。のちに日本人初のパリ・
オートクチュールコレクション、ローマ
コレクションのフラワーコーディネーターを
手掛けた。



人つてどん底
まで落ちた時
にチャンスつて
巡ってくる。も
う辞めてしま
おうかと思っ
ていた1996年、
ご縁でご紹介い
ただいた横浜三越のブライダルフェアの仕
事で桂由美先生に出会いました。フラワー
デザイナーとして、当時名もない自分が
横浜三越でのブライダルショーのウェディ
ングドレスに合わせたブーケを担当するこ
とになりました。

桂先生からはドレスとブーケのトータル
コーディネートについて徹底的に教えられる
ことになりました。その後、桂先生の新作ド
レスのフラワーコーディネーターの担当
を直接先生から打診されたときにはもう
信じられなくてうそつけて感じ(笑)。乃木
坂のメゾンで先生から何度もダメ出しを
されながらモデルとなる女優を引き立て
るドレスと花について打ち合わせを重ね
ました。桂先生と直接打ち合わせできる
なんて、気絶絶めです(笑)。そして無事に
新作ドレスショーが終わった後、桂先生か
らある有名女優の結婚式で使うブーケを
担当しないか、と言われたんです。

ストーリー4 成功の光と影

失敗から学び、次の経験へと生かす
こと。どんなトラブルでも対応できる
準備は万全にするようになりました。
ある女優さんの結婚式当日に信じ
られない事件が起きました。名付けて
ブーケすり替え事件です(笑)。これから
マスコミ会見という時にふとその女優
さんに目をやると私が作ったブーケと
違うブーケを持っている！別の花屋が
すり替えたんなんです。私事ですが、その頃
小学生の息子が不登校になっていて、仕事
にかまけて子供に目をかけなかった自分
に気が付いたという出来事があったん
です。だから子供に辛い思いまでさせて
作った自分のブーケがすり替えられてい
ることがもう本当に許せなくて。必死
の形相で私のブーケと差し替えたの。
女優さんは会見へ進み、新聞やTVには私
のブーケが映し出されました。翌日から
は問い合わせが殺到。マスコミの露出が
どれだけのソーシャル効果をもたらすか
を知ったのはその時です。同時に私は
そういう世界に足を踏み入れてしまっ
たのか…、とも思いました。余談ですが、
すり替え事件は1度や2度なんでもん
じゃない。なんて酷い世界に足を踏み
入れてしまったんだろうと泣いたことも
ありましたが、あるベテラン女優さんから
言われたのは「そんなときこそ取り乱
しちゃいけない、騒いだら負け、対応
できるように万全な準備をしておくのが
プロなのよ。」と。次からは予備のブーケ
を3つ4つ用意していきました(笑)。
そんな出来事も乗り越えさせたのは、



ストーリー5 ゆるれるブーケ誕生秘話

ブーケは揺れないという常識を覆し
た洗練された技術とデザイン。ドレス
とともにふわふわと華麗に揺れ動き
ます。持つだけで花嫁を美しく見せる
ことができる繊細かつ上品なセレブリ
ティー溢れるブーケ。
私がゆるれるブーケを開発する以前の
日本でのウェディングブーケは、ある一定
の規格に基づいた形が主流でした。それ
は、カチッと板のように固く、規格の形
から決してほみ出してはいけないような

ものでした。ブーケのパターンも数種類
の決まった形しかありませんでした。
それが、桂由美先生に出会い、それでは
全く通じないことがわかりました。デザ
イナーからすれば、100着のデザインの
ドレスには100種類のブーケが必要。オー
ガンジの柔らかいドレスには消える
ように揺れる繊細なブーケ、ミニスカート
のガーデニングウェディングのドレスにはポップ
に揺れるブーケなど…。とりあえず、
揺らしてください」と先生に言われたん
です。それからは研究に研究を重ねま
した。細いワイヤーを綿密に計算しパネ
の微妙な調整をしていきながら、人間の
歩みに合わせて揺れ方が全部変わる、
そんな繊細なブーケが完成しました。
加えて、どこから写真を撮らなくても
花嫁とドレスとブーケが一体化して
美しく見えるようブーケ自身を3D
の構成にするようデザインしました。
私自身、ご要望にお応えしたい思い
だけでしたので開発したという気持ち
は無かったんですが、今までのブーケと
全く違うので、メディアなど世の中が
「ゆるれるブーケ」と言い出して特集が
組まれるようになりました。この作り方
は特許の申請もしており、「元祖」として
今は認知されています。



Step Up

活動拠点を日本のみならず、
世界へと。

2012年にKAORUKOフラワーアカデミー
待望のロンドン校がオープン。
また、アメリカハーバード大学では、「プレミアムトーク
「ゆれるブーケ誕生秘話」を開催。



KAORUKO / 作品



KAORUKO / 外人の先生



ハーバードの教室風景

大切にしている思い

仕事を通じてお客様や様々な人間
関係に触れるうちに、心を込めて謝る
ことや相手の心に寄り添うことについて
深く学ぶことになりました。これでも
かというほど心を込めるといふことって
なんだらうと自分の心の内面に向き合
い深く見つめたんです。つい失敗の原因
を外に探して自分は悪くないと思
いがちになるけど、反対に自分の非を
認めることは非常に難しいですね。最終
的には素直が一番。本当の意味で反省
できる素直さがあれば自然と謙虚にな
れるしありがたいなと感謝もできる。
素直と感謝と謙虚はワンセット。そこ
に行き着いたんです。

元気の源

私、遊ばないんです。逆にお花に触
れていると寝なくても全然平気な位。
でも、年に何回かは仕事を兼ねて海外
へ行きます。子供もイギリスにいるし、
いい気分転換にもなりますね。

ウェディングブーケの トレンドについて



ロンドンやパリは生活の場所全てに
ファッションが取り入れられているから、
行くと必ずトレンドが何か？アンテナ
を張り巡らせたり。今年のパリの春
夏コレクションで大玉パールが使われ
いたのを見て日本にはまだ未入荷の
大玉パールを手に入れてアレンジメント
に取り入れました。ファッションやヘア
メイクと同じで花にも流行を取り入れる
べきだと思っています。髪につけるお花
も位置ひとつで今っぽい古臭いか全然
変わる。花も時代や流行に合わせて
変えていくべき。感性を常に研ぎ澄ま
せることが大切なんです。

名言集

素直、謙虚、感謝

素直って難しい。素直ぶるはしたた
かさや迎合となる。本当の素直とは、自分
の欠点に気が付くことができ、次に
生かすことができる人だと思います。

art de vivre

—アール・ドゥ・ヴィヴル—
な生活

アール・ドゥ・ヴィヴル—ART
DE VIVRE—フランス語で「生活
は芸術」という意味です。

日常生活にさりげなく自分の好き
なモノやコト、人それぞれの「粋」を上手
に取り入れながら生活していくこと。
毎日の変わらない生活の中にちりばめ
られたちよつと素敵なコトや人を感じ
とるセンサーを持ち、日々自分を磨き
ましょう。

